

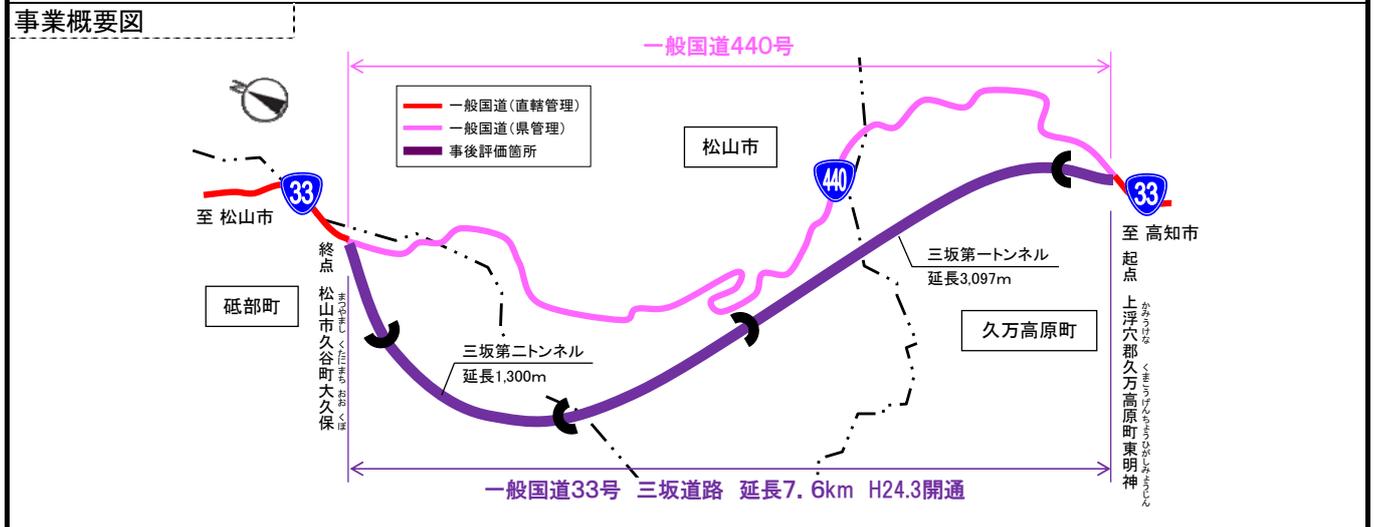
事後評価結果（平成 28 年度）

担当課：四国地方整備局 道路部 道路計画課
 担当課長名：藤浪 武志

事業名	一般国道33号 <small>みさか</small> 三坂道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：愛媛県 <small>かみうけな</small> 上浮穴郡久万高原町 <small>くまこうげん</small> 東明 <small>ひがしみようじん</small> 神 至：愛媛県 <small>まつやま</small> 松山市久谷町 <small>くたにまち</small> 大久保 <small>おおくぼ</small>	延長	7.6km		

事業概要
 一般国道33号は、高知市を起点とし久万高原町を経て松山市に至る全長約123kmの幹線道路であり、沿線地域の生活を支える重要な路線である。このうち、三坂峠を含む区間は、特に線形不良箇所が多く、異常気象における事前通行規制や冬期の積雪・凍結等による通行障害が多発していた。
 三坂道路は、これらの課題解消を目的に計画された延長7.6kmの自動車専用道路であり、平成23年度に開通した。

事業の目的・必要性
 本路線は、地域高規格道路「高知松山自動車道」の一部を形成し、線形不良区間の回避による走行性、安全性の向上、幹線道路としての信頼性・利用者の安心感の向上、医療施設へのアクセス向上による安心の向上、緊急輸送道路ネットワークの強化による安全・安心の向上など重要な役割を果たすものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H8年度	用地着手	H11年度	供用年	(当初) - / H22年度	変 動	1.1倍
		都市計画決定	-	工事着手	H11年度	(暫定/完成)	(実績) - / H23年度		
	事業費	計画時	(名目値) - / 387億円	実績	(名目値) - / 382億円			変 動	0.99倍
		(暫定/完成)	(実質値) - / 388億円	(暫定/完成)	(実質値) - / 360億円				
交通量	計画時	- / 8,900台/日	実績	- / 7,200台/日			変 動	81%	
	旅行速度向上	51.0 → 69.8 km/h	交通事故減少	8.8 → 1.3 件/年					
	費用対効果分析結果 (当初)	B/C: 1.3	総費用: 396億円 事業費: 361億円 維持管理費: 35億円	総便益: 495億円 走行時間短縮便益: 432億円 走行経費減少便益: 51億円 交通事故減少便益: 12億円	基準年: 平成17年				
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C: 1.1	総費用: 533億円 事業費: 513億円 維持管理費: 20億円	総便益: 577億円 走行時間短縮便益: 508億円 走行経費減少便益: 52億円 交通事故減少便益: 17億円	基準年: 平成28年				
	事業遅延によるコスト増	費用増加額	-11億円	便益減少額	30億円				
	事業遅延の理由	用地交渉の難航による遅延							

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間時間損失が削減 ・JR四国バスが運行する久万高原線が平成29年1月1日より三坂道路を経由するルートに変更 ・特急停車駅へのアクセス向上【久万高原町～JR松山駅(60分→56分)】 ・第二種空港へのアクセス向上【久万高原町～松山空港(67分→63分)】 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要港湾へのアクセス向上【久万高原町～松山港(75分→71分)】 ・農林水産品の流通利便性が向上【久万高原町～松山IC(36分→32分)】 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路「高知松山自動車道」の一部を構成 ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成【高知市～松山市(175分→171分)】 ・日常活動圏中心都市へのアクセスが向上【久万高原町～松山市(57分→53分)】 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第72回国民体育大会（えひめ国体）の円滑な運営を支援 ・久万高原町内の観光施設へのアクセスが向上【沿線の道の駅、スポーツレジャー施設等の入場者数が増加】 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設へのアクセス向上【久万高原町～愛媛県立中央病院救命救急センター(47分→43分)】 <p>⑥安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急カーブや急勾配を回避するルートが形成され、走行性や安全性が大幅に向上 <p>⑦災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「愛媛県地域防災計画」において、第一次緊急輸送道路に指定 ・旧国道33号（現国道440号：第一次緊急輸送道路）が通行止めになった場合の代替路を形成 ・三坂道路の整備に伴い、国道33号の事前通行規制区間が7.4km短縮、チェーン規制時間が約277時間短縮 <p>⑧地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量を削減 <p>⑨生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量を削減 ・SPM排出量を削減 <p>⑩その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産科・産婦人科病院へのアクセス向上により出産環境が大幅に改善 ・久万高原町内に新たに木材チップ工場が進出、地域資源の有効活用や雇用拡大、地域経済の活性化に期待 ・久万高原町では、三坂道路の開通後に新たなイベントが企画・実施されており、地域観光が活性化 ・道の駅「天空の郷さんさん」では、地元特産品を使った新商品の開発・販売を推進、特産品の生産者である町内の農家、商品の製造を行っている町外の食品加工業者を含めた新たな経済循環のサイクルを構築 <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>—</p>
事業環境に変	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>—</p>
よ化する	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>—</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線地域(久万高原町)の人口は、開通前の平成22年以降、減少傾向。 ・沿線地域(久万高原町)の自動車保有台数は、開通前の平成22年以降、減少傾向。 ・開通区間(三坂道路)の利用が想定される通勤・通学流動(H22)は約844人/日であり、沿線地域から他市町村への通勤・通学者の8割以上が自家用車を利用。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>三坂道路の開通により、現道の通行障害の解消、中山間地の救急医療体制等の強化、観光交流人口の拡大を通じた地域の活性化、防災機能の強化など、事業目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事後評価の必要性はない。</p> <p>また、三坂道路は、想定された効果が発揮されており、当面の改善措置の必要性はない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。